

## 8-4-10 ダム・発電専門委員会

### 1. 主な活動の記録

#### (1) 委員会の開催

専門委員会開催回数：8回

地質分科会開催回数：9回

#### (2) 協会活動への協力・支援

「照査特別WG」に参画し、ダム分野におけるエラー事例の収集と要因分析に基づく品質セミナーのテキスト作成に協力した。

また、BIM/CIM 推進委員会 基準要領等検討WG ダムSWGに参画し、「CIM 導入ガイドライン(案)第4編 ダム編」の作成に対応した。

#### (3) 若手技術者を中心とした討論会・講演会

平成18年度より若手技術者による自主的な企画に基づく勉強会を継続して開催している。

令和元年度は5名の若手技術者による準備WGを3回開催したうえで、10月28日に「ダムの調査・計画・設計に関する業務」をメインテーマに業務事例発表会を開催した。参加者は総勢39名であった。また、ダム工事総括管理技術者会(CMED会)藤田 司会長から「佐久間ダムや黒部ダムの施工記録を見て、私が思うこと」に関して講演を頂きました。本大会始まって以来初めてとなる施工者側の講師を招き、現場でのダム技術の進展を分かりやすく説明して頂きました。参加者は総勢39名であった。発表した業務事例としては、ダムの本体設計・施工計画関連2例、耐震補強関連1例、ダムの挙動関連1例、CIM関連1例の注目度の高い業務トピックスが紹介され、講師を交えた率直な意見交換を行った。

#### (4) ダム工事総括管理技術者会との意見交換会

平成13年度からダム工事総括管理技術者会(CMED会)からの呼びかけに応じ、年1回意見交換を行っている。令和元年度は、11月29日に開催し、ダム・発電専門委員会からは「施工や積算に関連した設計の課題と改善策」、「調査・設計エラー事例と改善策」の二つのテーマについて発表を行った。CMED会からは「働き方改革

(4週8休体制の工期と工事費への影響)」に関する発表があった。意見交換会には、専門委員に加え、各社設計実務担当者も参加し、参加者は16名であった。CMED会の常任幹事および(一財)日本ダム協会から総勢19名が参画し、意見交換を行った。

#### (5) ダム現場見学会の開催

年1回ダム地質および設計技術者を対象に、建設中のダム現場の地質を中心とした見学会を行っている。令和元年度は、8月1日～2日に建設中の安威川ダム(大阪府：中央コア型ロックフィルダム)、川上ダム(水資源機構：重力式コンクリートダム)、を見学した。参加者は28名であった。

#### (6) 地質技術報告会の開催

年1回、主に地質技術者を対象に技術報告会を行っている。令和元年度は、当報告会が記念すべき40回を迎え、8月24日に「40年をふりかえる(初心に帰る：応用地質学の役割)」をテーマに掲げ、(一財)ダム技術センター 山口 嘉一様、東京大学大学院新領域創成科学研究科 徳永 朋祥様、日本工営株式会社 奥田 英治様による招待講演と、総合討論を行った。参加者は210名で過去最高であり、40周年にふさわしい盛大な報告会となった。

#### (7) ダム設計に関する技術勉強会の開催

技術レベルの向上および研鑽を目的とした当勉強会は今年で5回目を迎える。令和元年度は、『技術の系譜～「面白くて為になる真実の発見』』をテーマとして、9月19日に開催した。講師は、(一財)ダム技術センターの川崎 秀明様で、土木の美、コンクリートダムに生じたクラックの原因と対策、ダム技術の変遷等をわかりやすくご説明頂き、ダム技術向上に向けた貴重なアドバイスを頂きました。参加者は32名であった。

### 2. 次年度の活動について

今年度の活動を継続実施する。

(ダム・発電専門委員会委員長 井根 健)